

川崎郷土・市民劇「大いなる家族」―戦後川崎ものがたり―

5月2日・3日・4日、多摩市民館で上演されました。

ものがたりは川崎の空襲の場面からはじまります、爆音・サイレン・たちのぼる煙・逃げ惑う人々・・・市民館の平らな四角い舞台だとわかっているのに、早く逃げて！ 転ばないで！と心が叫ぶ緊迫感。

舞台は静まり、焼け跡に建った居酒屋を舞台に、絶望と貧困に苦しみながらも明日に向かって生き、励ましあい支えあい絆を強め起ちあがってきた様々な人間模様が展開します。



川崎市指定無形民俗文化財「川崎沖縄芸能研究会」

川崎や横浜には仕事を求め大正時代から沖縄県民が移住したと言われていますが、戦争が終わると故郷へ帰ることもできなくなってしまいました。

戦争は何もかもを焼きつくしましたが、歌や踊り・・・沖縄の心を消し去ることはできませんでした。川崎に暮らした先人達も文化遺産である沖縄伝統芸能を心の糧に生きぬいてこられたことだと思います。それがやがて川崎市の無形民俗文化財に指定されるまでの経緯も描かれています。

小さな灯りがあちらこちらに少しずつ見えてきて、きっとこれがひとつの大きな灯りになるのだと信じ、今の時代に繋げてくれた全ての人々にお礼を言いたいです、心から。

作者の小川信夫さんは86歳。戦時828名の特攻仲間を空に送りご自身は次回の出撃を待つうち終戦、教員免許をもちながらも戦歴から公職追放の数年を過ごしたそうです。その時その後の苦悩は計り知れないものだと思いますが、よく書いて下さいました。生きていて下さってありがとう、伝えて下さってありがとうございます。

杉本孝司さんの演出にも圧巻・・・作者の想い・演者の持つ可能性を引き出し、それを最大限に魅せる舞台芸術、何もわからない私でさえ感動しました。

演者の皆さんのエネルギー・スタッフの皆さんの熱意、何もかもに拍手!!!

5月24日・25日・26日は川崎市教育文化会館で上演されます、是非多くの皆様にご観覧いただきたい舞台です。